

水害に強い地域づくり計画 ～日野川中流左岸地区～

東近江圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会

水害に強い地域づくり計画WG

水害に強い地域づくり計画

← (川の外の対策) →

→ (川の中の対策) ←

地区別避難計画
の策定など地域
防災力の向上

家の敷地を高くしたり、
周りを囲んだり、
すまい方の工夫



輪中堤
嵩上げ



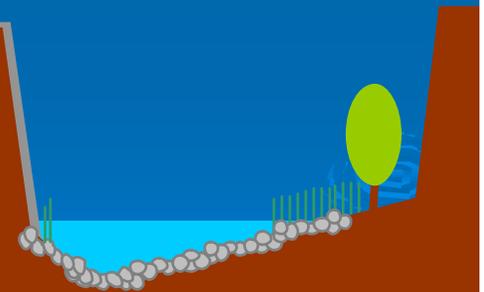
霞堤
二線堤

土地利用誘導



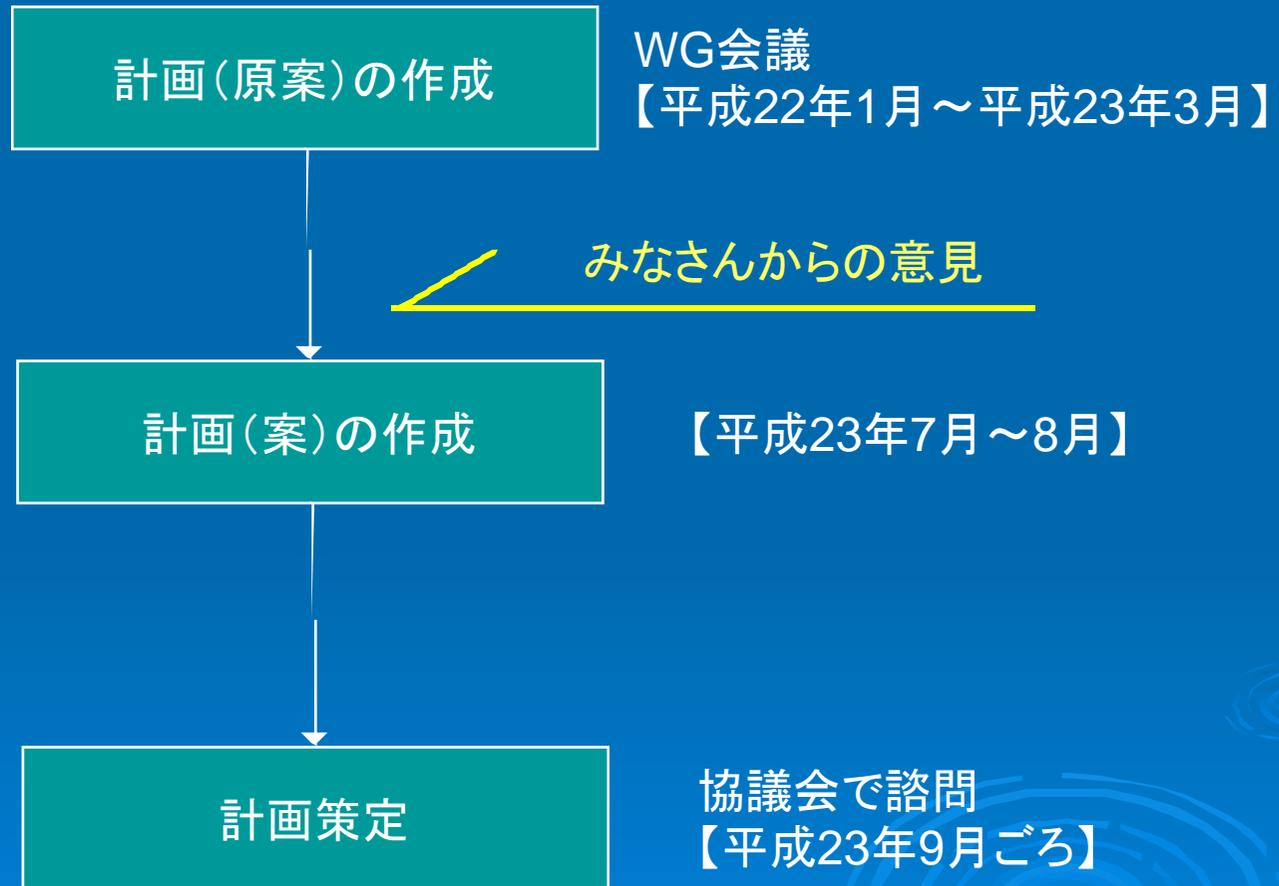
水害
防備林

堤防
強化



維持管理・河川改修

計画策定の流れ



○計画策定までのながれ

1) 計画内容のご説明、意見記入用紙の配布

<7月23日(土):本日>

2) 各自治会で意見記入用紙に意見を記載

<7月24日~8月25日>

3) 意見記入用紙を竜王町役場に提出

<8月26日(金)>

4) ご意見に対する対応を各自治会に回答

<9月中旬>

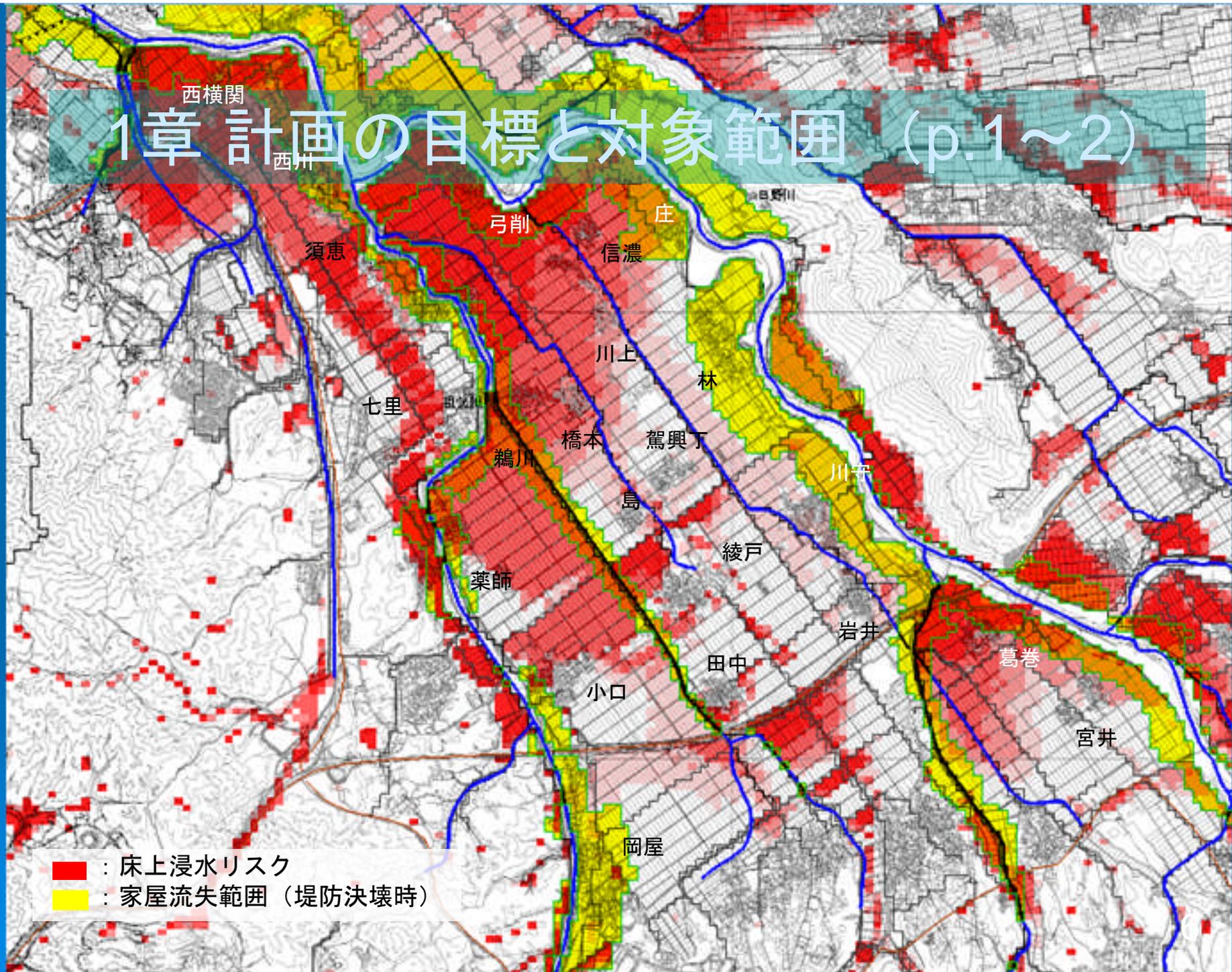
5) 修正した計画(案)を協議会で再検討

6) 計画策定(策定後は、必要にあわせ適時修正)

いただきたいご意見

- 「洪水時の避難訓練を実施する」、「集落ごとに避難ルールを設定する」など、川の外の対策について、各集落で実施している内容や今後実施すべきと思われる内容について、ご意見をいただきたいと考えています。
- 意見記入用紙は8月26日(金)までに竜王町役場にご提出願います。

1章 計画の目標と対象範囲 (p.1~2)



2章 河川および流域の特性 (p.3~49)



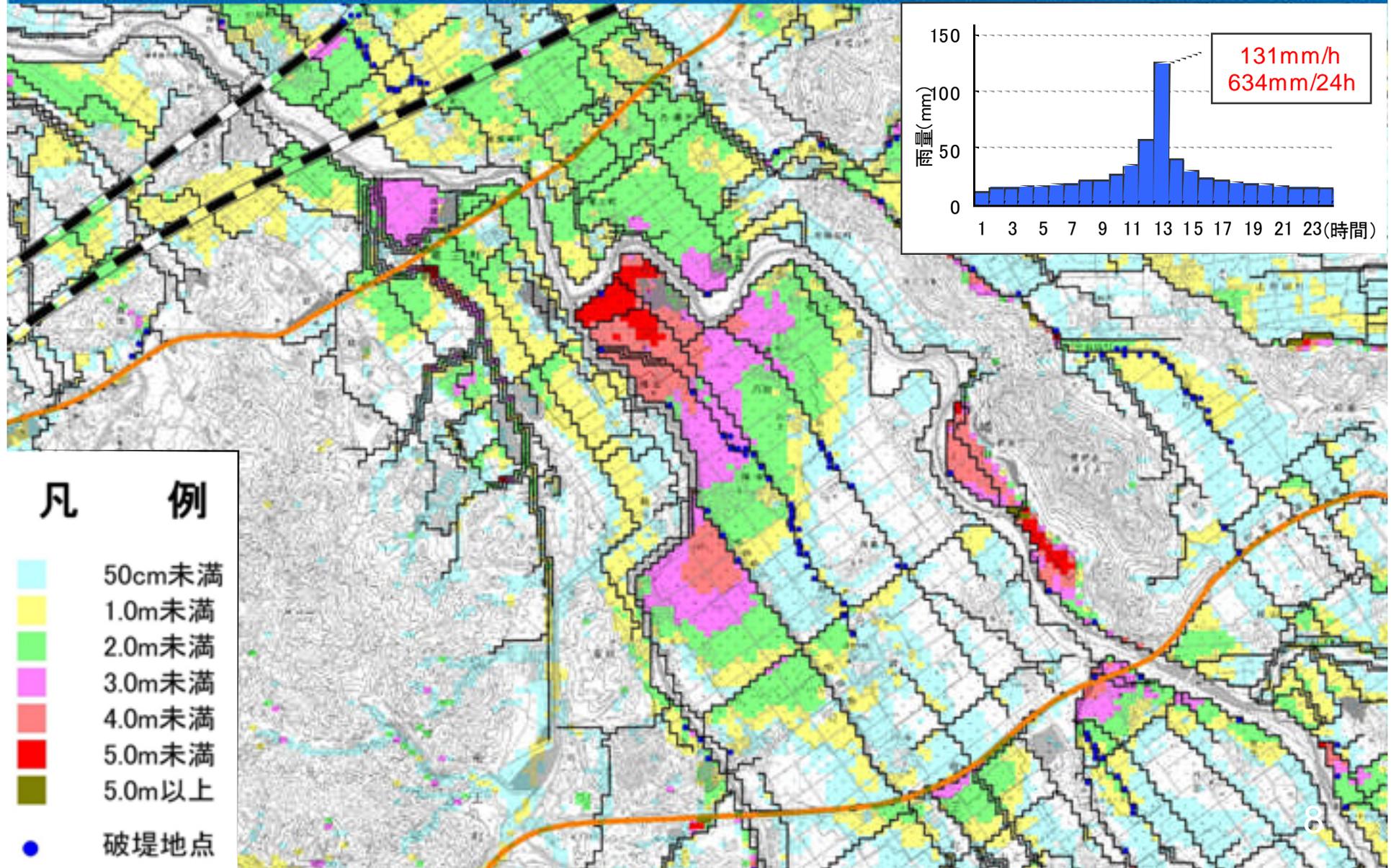
日野川の堤防決壊(昭和34年)



➤ 水害の歴史
(昭和28年、昭和34年、平成2年等、過去の水害の状況等)

2章 河川および流域の特性 (p.3~49)

➤ 氾濫シミュレーション 最大浸水深図(200年確率降雨)



3.1 洪水を安全に「ながす」対策の現状と課題 (p.50)

○河道の維持管理

- ・竹の伐採は3～5年継続しなければすぐに元に戻ってしまいます。
- ・河川の草刈りは川沿いの集落だけで対応している場合が多く、川沿いの集落の大きな負担になっています。また、清流会のように住民・企業・行政など多様なメンバーでふるさとの川をよみがえらせる活動もみられます。



3.3 はん濫を一定の地域に「とどめる」対策の現状と課題 (p.51)

②水害に強い土地利用

- ・弓削や葛巻町等の集落では家屋の地盤をかさ上げすることにより、浸水から命や財産を守る工夫がされています。しかし、新たな建物でこのような工夫がなされていない場合がみられます。

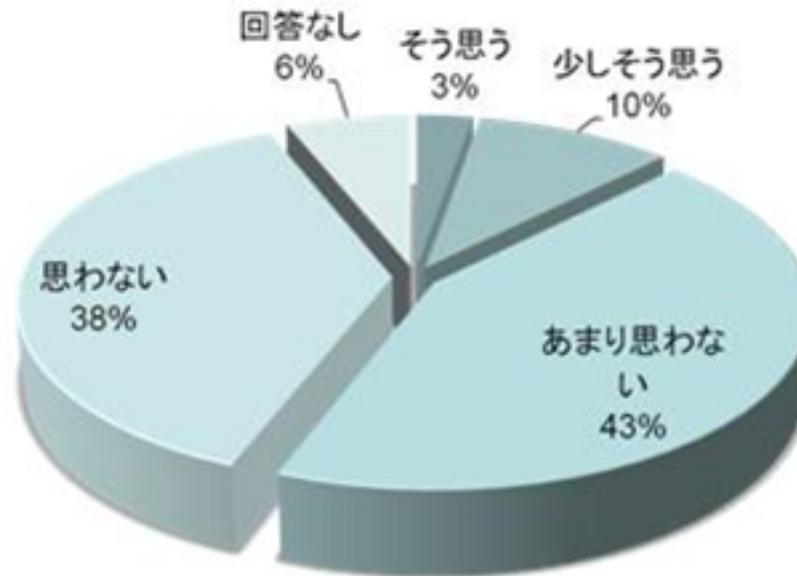


3.4 水害に「そなえる」対策の現状と課題 (p.51)

①避難行動

- ・近年、大きな水害が起こっていないため、住民の水害に対するそなえる意識が低下しています。
- ・洪水時の避難について、タイミングやルート、要援護者の対応等、自らが判断でき、行動できる住民は多くありません。

Q) あなたは、今のお住まいが、今後10年以内に、洪水による被害を受けるとお考えですか？



県政モニターアンケート



4.1 洪水を安全に「ながす」対策 (p.52)

①維持管理

- ・県は、河川愛護活動の活性化のための支援の充実させ、地域住民との協働による河川の維持管理を推進します。
- ・住民は、上記支援制度を活用し、草刈りや川ざらえ等の維持管理を実施します。



4.3 はん濫を一定の地域に「とどめる」対策 (p.53)

②水害に強い土地利用

- ・住民は、地域の合意が得られた場合、県・市町と連携して、浸水実績や予想浸水深等を表示した看板やステッカーを設置する等の取り組みを行うことにより、水害に強い地域づくりに努めます。
- ・住民は、家屋の浸水や流失が予想される区域においては、地盤の嵩上げ等、安全な住まい方を行うよう努めます。



4.4 水害に「そなえる」対策 (p.54)

①避難および水防活動

- ・住民は、地域の特性に応じた避難方法や避難経路等について検討し、地域ごとの避難計画づくりに努めます。
- ・市町は、自治会または自主防災組織および住民と協働して、水防訓練や一斉避難訓練を実施します。県は、訓練の実施にあたって、財政的支援や指導・助言を行います。

自主避難ルールを作ろう

土砂災害に対する自主避難ルール(群馬県みなかみ町栗沢区の事例)



水防訓練

(群馬大学大学院 片田教授講演資料より)